

2023年8月12日—令和5年度第4回 グアム日本人学校 定例理事会議事録

時 間： 午後2時～午後4時50分

場 所： 日本人学校会議室

出席者：権田、渡辺（た）、伊藤、井上、井手、小形、木村、許、スミス、プール

（オンライン参加）時任、プルモネス、今津

欠席者：武石、二宮

渡辺（奈々）

議長：渡辺（た）

記録：木村

定数確認：理事の全員参加により本会議は正式に開催されることが確認された。

議題；

1 報告事項

1.1 各部報告への質疑応答

1) 全日制

武石オブザーバーからの事前質問への回答

- ① 井手校長より、今後増える見込みの生徒について説明があった。現地校が新年度から開校しない場合に転入したいという問い合わせが複数あった。
- ② Docomo の通信インフラは改善したので、本件は解決済み。
- ③ スクールカウンセラーについて、2学期から2年生教室を対象に、カウンセラーの方に入って頂く予定。保護者との接触ではなく、クラス観察から教員への助言を中心にお願いする予定。
- ④ 今回、各学校の主任より報告書を提出いただいた。具体的に学校内で起こっている事が書かれており、我々理事にとって大変参考になる。このような事を知らずに理事会を運営するのは困難。書かれている課題、アイデアについては、今後、主任とも協議を進めていきたい。また、今後もこのような報告をお願いする予定（渡辺た）

2) 補習授業校

武石オブザーバーからの事前質問への回答

- ① 在籍数の報告表記について、人数増減の対比がしやすいよう、来月以降は全日制と同様な報告をして頂く。将来予定されている沖縄からの海兵隊移転に伴い、児童生徒が増加する可能性がある（渡辺た）。来月報告から表記を変更する（小形）。
- ② 新しいプログラムについて（収益拡大）、JLPT への試験対策クラスを開講する予定はない（小松先生はそのスキルあり-時任）。日本人学校で JLPT 試験の開催ができるかは継続して検討する。書道（書写）であれば開講可能。算数・数学の受講者が少ない、9月に見学週間を設け、実際の授業参観をして頂く。但し現地校の算数・数学授業の内容と程度を確認し（どのように？）、補習授業校での授業の必要性を感じ取れなければ、拡大をする必要はないと考えている。また家庭の都合（送迎・習い事）を優先される傾向があるので、魅力があり、需要あるクラスの開講が求められている（小形）。

3) 幼稚部

武石オブザーバーからの事前質問への回答

- ① 園児増加対策について、2歳児クラスを開設できないか検討する。翌年度の入園児の Evaluation も兼ねる。一方で教員側の不足、日本からのチューター含め検討していきたい（プルモネス）。
- ② 小チームを組み、理事会としても検討していく（渡辺た）。

4) 全日 PTA、補習授業校 PTA
報告書の通り

5) 事務局

芝刈り業者について、月 2 回で\$3,000 とインパクトが大きいので、月 1 回での見積りを依頼する予定。実際に 1 回に変更した場合、子供の学校利用に支障があれば 2 回に戻すことも考える（渡辺た）。今までの経験上、雨季には月 2 回必要（スミス）。

1.2 JOES 事務長会議報告

- ① 世界各国それぞれの在外教育施設が色々な取り組みが進んでいる、特に書類の電子化（Google Form など）が印象的だった。現状、紙ベースでの書類管理が多い当校の事務作業は非効率だと感じた（許）
- ② 財団の在外教育施設の存続に対する危機意識が非常に高い、保護者のニーズが変わってきている中で、いろいろな取り組みで JOES と連携していく。財団は学校教育プログラムに関するコンサルティングも行っている。例えば在外教育施設の中には子供たちの英語のレベルに応じて文科省教科書を使用していない学校があると聞いた（渡辺た）。
- ③ 幼稚部への教員派遣支援を国から得られるようにする目的で、試験的にグアム日本人学校幼稚部が JOES に協力する事となった。日本の大学生を 2 週間程度幼稚部に派遣させ、在外施設においても日本の幼稚部教育が必要であると証明し、文科が予算措置を行うことを目標として、本取組に協力していく（渡辺た）。

1.3 DPHSS、台風復旧報告

事前報告の通り、特に質疑なし。JOES「緊急援助」の申込書類上の学校側担当者は井手校長とする。許が理事会側担当者として書類を準備する（許）。

1.4 保健室について

継続して教職員と協議をしていく。

1.5 決算公告

PDN 紙面報告済み。Annual Report も提出完了。

1.6 アクションアイテム管理（Asana）の件

参加者数を増やしたところ、有料プランでないと操作できないことが判明した。改めて確認する（渡辺た）。

1.7 予算管理

- ① 4 ヶ月のキャッシュアウト状況報告、2022 年との比較、イン（授業料 63%）とアウト（人件費 58%）の GL をモニタリング中。全・補・幼合計の在籍数 140 人を損益分岐点として仮定し、授業料の値上や生徒数を増やす取り組みを検討して進める。アウトは人件費以外の支出圧縮は限界に近い。インについては授業料の値上げだけでは賄えない。より積極的な寄付のお願いを行う必要がある。

- ② 昨今、年間 20 万ドルの現金が CashOut（減少）しており、現在の口座残高を鑑みると、あと数年で学校経営は破綻する。早急に学校経営の改革を進める必要があることを認識いただきたい。
- ③ また、同改革も、ただの延命措置を施すのではなく、グアム日本人学校の存在価値を見直し、その費用を見定めることが肝要。そのためには理事会だけでなく、教員の意見、アイデアも幅広く集めて改革を進めていきたい（渡辺た）。
- ④ 子供の将来にとって、何が良いのか、常にそれを意識している（井手）。

1.8 日本人会より

- ① 11/18 の秋祭りに於ける学校の参与について改めて依頼（渡辺た）。
- ② 現在、ステージ演奏を中心に検討している（井手）。

2. 討議事項

2.1 幼稚部の園長任命について

- ① プルモネス先生の 3 カ月レビュー後（時任・渡辺た）に任命承認となる予定。早ければ 9 月 1 日付。

2.3 補習校ニーズのリサーチと分析

- ① 今後の生徒確保のために、非在校家庭（全・補・幼）のニーズ調査を行う。具体的なアンケートをどのように行うか検討する（許）
- ② ダラスの補習校は 2 年間かけて、マーケット調査、学校プログラムの見直しを図った。グアム補習校にはそのような時間的猶予はなく、できるものから、来期スタートしたい（渡辺た）

2.5 幼稚部のフルタイム確保について

- ① プルモネス先生より現状について以下のとおり報告があった。
 - ・愛知県から応募があったが、ビザもステータスもない
 - ・幼稚部の資格を持っている方がいるので声かける予定
 - ・GCC 幼児教育学科で日本語が話せる方がいれば声掛けしたい
- ② 入学申し込み書類にて、保護者の教員免許の有無を書いてもらっている学校もある（許）

3. その他

3.2 日本人学校と日本人会について

お互いをよく知らないので、交流の場を設けた方がよい（授業参観など）、秋祭りなど関りを深めたいが、お子様が学校に通学していないなど、学校に関心をもてない理事もいる（井上）。